

午後 I 試験

問 1

問 1 では、仕入れ納品システムの変更を例にとり、業務フロー、ファイルレイアウトの変更などについて出題した。

設問 1 は、(1)、(2)の正答率が低く、(3)は正答率が高かった。(2)では、不定貫商品の処理が定貫商品の処理と異なるので、これを判断する区分が必要になることを問うたが、不定貫商品の処理に必要な属性を想定して、“内容量”といった誤った解答をしたものが散見された。

設問 2 は、正答率が低かった。ピッキングという作業を、納品伝票の作成、値札発行、値札貼付を含む一連の作業と誤って解釈した解答、また、“数量”と“内容量”を混同した解答が目立った。(2)は不定貫商品に係るピッキング方法の変更を問うたもので、数量だけでなく、個々のパックの納品先を意識してピッキングを行う必要があることに気付いてほしかった。

設問 3 は、(1)の正答率が低く、(2)は高かった。(1)では、定貫商品は実納品原価、実納品売価を商品マスタの単価と実納品数量から計算することができるが、不定貫商品は個包装ごとに原価、売価が異なるので、定貫商品と同じ方法では算出できないことに気付けば正解が導けたはずである。

システムアーキテクトとして、業務要件の変更内容を十分に理解した上で、適切な処理の変更、ファイルの変更などが行えるように心掛けてほしい。

問 2

問 2 では、問合せ管理システムの導入を例にとり、システム構成の設計や権限の定義について出題した。

設問 1(3)では、新システムの導入と基幹業務システムの再構築の時期が重複することによる影響を問うたが、基幹業務システムの再構築のことだけが記述されている解答が散見された。

設問 2 では、D 社の要望に基づく登録のタイミングを問うたが、対応策を相談するタイミングや D 社品質保証部門に報告するタイミングといった誤った解答が散見された。

設問 3(1)は、全体として正答率が高かったが、e は誤った解答が多く見られた。表 2 に表記されている、利用者の所属が D 社品質保証部門又は製品部門の場合の“担当者”の情報に対する権限と同じものを誤って選択しており、問題文をよく読めば防ぐことができた誤りだった。

設問 3(2)では、販売会社及び D 社の両者の要望を踏まえた解答を期待したが、いずれか一方の要望しか記述されていない解答が多かった。

システムアーキテクトとして、複数のステークホルダの要望を十分に理解した上で、整合性の取れた適切な情報システムの設計が行えるように心掛けてほしい。

問 3

問 3 では、商品の出荷後の売上から回収までの業務を例にとり、業務の改善や変更の要件について出題した。

設問 1 は、(1)、(2)ともに正答率が高かった。(1)は、出荷基準と検収基準での売上計上のタイミングが理解できていれば解答できたはずである。(2)では、勘定科目を二つ解答すべきところを一つだけ解答しているものが散見された。

設問 2(2)は、正答率が低かった。検収基準で出荷された商品の返品の場合、検収前はまだ売上が計上されていないので、売上修正の対象にはならない。また検収後の商品は、返品は発生しないか、発生したとしても自社責任の返品とはならず、返品受付処理の対象にはならない。このことを理解してほしかった。

設問 4 は、正答率が高かった。誤った解答としては、“顧客の支払条件を含めて”と問うているにもかかわらず、支払条件を記述していないものが見られた。

システムアーキテクトとして、業務要件の内容を十分に理解した上で、入出力設計、処理設計、システム間のデータ連携の設計などが行えるように心掛けてほしい。

問4

問4では、生活支援ロボットシステムを例にとり、システムアーキテクチャの決定、機能仕様の策定について出題した。全体として正答率は高かった。

設問2(2)では、データ照合をサーバで行う理由を問うたが、正答率が低かった。システムの要件及び構成を十分把握した上で解答してもらいたかった。

設問2(3)では、受け取った配達物が在庫管理対象品の場合に、サーバがロボットに指示する動作を問うた。“在庫管理”との誤った解答が散見されたが、ロボットは対象品をトレイに移し、入庫数をカウントすることを問題文から読み取ってほしかった。

設問4では、配達物受取機能実施中に、遠隔操縦機能を受け付けないようにした理由を問うた。理由ではなく、表面的な事象を述べた解答が散見されたが、そのような処理を行わない場合、どのような不具合が生じるかを考えた上で解答してほしかった。

システムアーキテクトとして、システム要件をよく理解して、機能仕様の策定するように心掛けてほしい。